



## 新年のご挨拶

### 院長 梶原建熙

明けましておめでとうございます。皆様には御健勝にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年新しいオーダーリングシステムの導入に始まり、市内救急輪番病院としての院内体制の見直し、外来看護部・検査科・放射線科の2交代体制への移行、造影剤使用検査を迅速にするためのCT・MRI検査の安全体制の見直しなど、病院の将来構想に関わる重要な動きがありました。それに伴い職員には今までとは違った状況下での職務遂行が求められ、外来の患者の皆様やご紹介頂いた開業の諸先生方にはややご不便を掛けたのではないかと危惧しております。しかし、一方ではここ数年間皆様に大いにご迷惑を掛けてきた医師不在問題のうち、耳鼻咽喉科・眼科・麻酔科に常勤医を迎える事が出来たこと、病診連携をより効率化することを目的としたベッドコントローラーの設置、院内感染予防をより細かく取り組むためのICTの結成、外来化学療法室の本格的な稼働を始め、病院機能評価機構によるVer5の施設認定など念願となっていた諸課題の解決に向け、喜ばしい事も数多くありました。皆様には数々のご協力を頂き有り難うございます。

さて、本年4月からはDPC参入病院として歩むこととなります。適切かつ迅速な病名の把握、クリニカルパスの見直し・充実化、入院検査のセット項目の見直し、外来での入院前・手術前検査の実施、後発薬品への見直し等々取り組むべき諸問題が山積みとなっています。すでに井上副院長を頭に強力な委員会が立ち上がっていますが、急性期病院として生き残るためにはどうしても整えなければならない体制ですので、病院内外の皆様のご協力を心より願いますところ です。

12月には待ちに待った新病棟への移転です。院内各部署から数々の希望が寄せられていますが、非常に厳しく定められた予算の中でもあり、全てを反映することが出来ないことは病院の現況から見て心の痛む問題です。しかし、当院からの強い働きかけと労働者健康福祉機構本部の英断的決済によって、これでも当初の予定より半年早く新しい病棟に移ることが出来ることとなりました。喜ばしい限りですが、予定されている新しい診療科や病棟構成の見直しなど未だ多少議論を残す部分もあります。また、本年末の移転に際しては、敷地内引越しとは言いものの、相当の混乱が予想されます。高橋副院長の指揮の下病院全従業員が一致協力し、要領よく計画的に事を運ぶべく努力して参りますが、それでもなお患者の皆様方にご迷惑を掛ける事態は避けられそうにありません。医師会の諸先生方を始め皆様にはご理解とご助言をお願いする次第です。

今年は丑年です。病院の経営改善についてはまるで牛の歩みの如く遅々として進みません。それでも確実に一歩一歩と前進しつつあります。新病棟まであと1年。実現しつつある夢を目前に、流されずしっかりと地面に足をつけて、確実に安全で良質な医療を提供出来るよう努力して参りたいと祈念しております。本年もよろしくお願ひ致します。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

## 人事異動

平成20年12月31日付け  
(退職) 精神科部長 谷 邦彦